

ブルキナファソ国 ゴマ生産支援プロジェクト ニュースレター



ブルキナファソ国 農業・水資源整備省

独立行政法人 国際協力機構



ハイライト:
第1回合同調整委員会が開催され、プロジェクトの取り組みが加速。カウンターパートの正式任命と、日本人コンサルタント7名が新たに着任。プロジェクトの実施に向けた協議の開始。

第1回合同調整委員会の開催

2016年3月4日、ブルキナファソの首都ワガドゥグで、「ゴマ生産支援プロジェクト」の第1回合同調整委員会が開催



写真：開会の辞を述べた3人。左から、農業経済振興総局の、OUEDRAOGO 総局長、OUEDORAOGO 事務次官、JICAブルキナファソ事務所の小林所長。

されました。農業省の事務次官や農業経済振興総局の総局長、プロジェクト対象州の1つであるオー・バッサン州の

農業局州局長、JICAブルキナファソ事務所の所長を含めた44名が参加しました。当プロジェクトは農業経済振興総局が中央レベルにおけるメインのカウンターパートですが、当日は同局の農業フィリエール経済監視・振興局の局長とスタッフより、プロジェクトの枠組みと活動の大枠に関してのプレゼンテーションがあり、プロジェクトチームを代表して中垣長睦総括（株式会社VSOC）がプロジェクト活動の中身についてプレゼンテーションを行いました。その後、参加者の間で質疑応答、議論が行われました。

* フィリエールとはフランス語の「filière」から来ており、「関連産業」の意味を表します。

目次:

第1回合同調整委員会の開催 1

ブルキナファソ側のカウンターパートの任命 2

業務実施チームの赴任 3

プロジェクトの実施に向けた協議（中央政府など） 3

プロジェクトの実施に向けた協議（地方州） 4



上写真：会場の様子。
下写真：発表をした3人。左から、農業フィリエール経済監視・振興局の DIAWARA 局長、同局の POUYA 氏、プロジェクト総括の中垣。

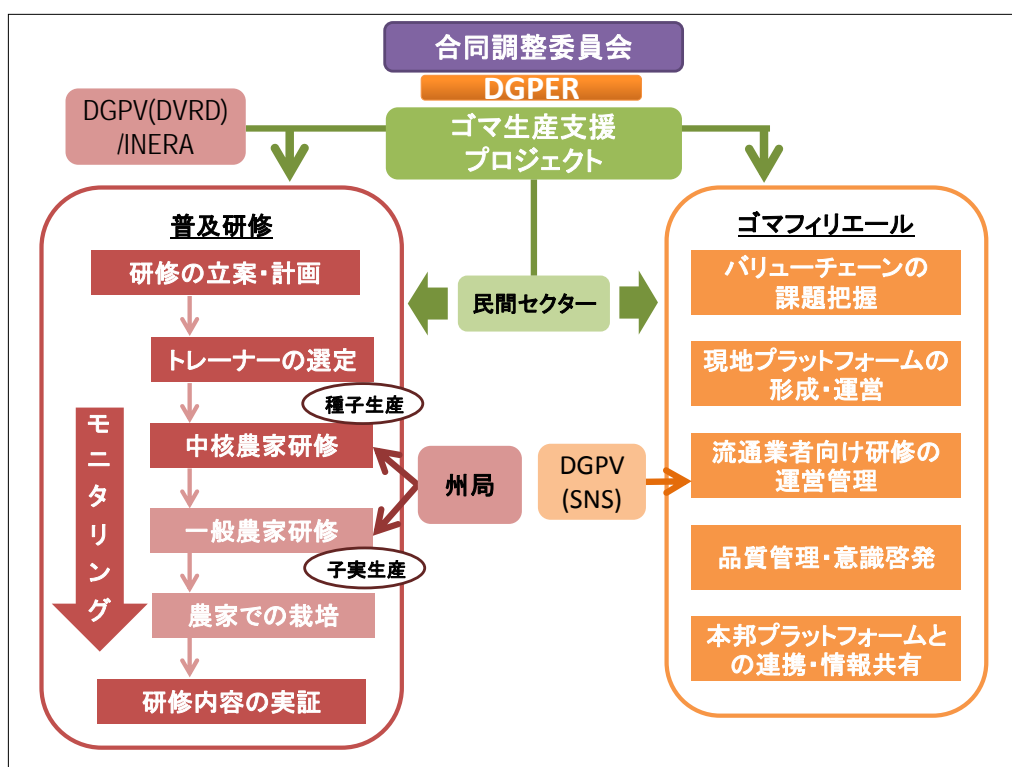


上写真：質疑応答を取りまとめて答える、農業省のOUEDORAOGO事務次官（右）とDIAWARA局長。
下写真：会場からの質疑・コメントの様子。

ブルキナファソ側のカウンターパートの任命

2015年12月28日、ブルキナファソ側のカウンターパートが正式に任命されました。もちろん、これまでもプロジェクトは実施されてきたので、ブルキナファソ側とともに活動してきていましたが、この度、正式に任命という形となりました。任命された主な面々は以下の通りです。

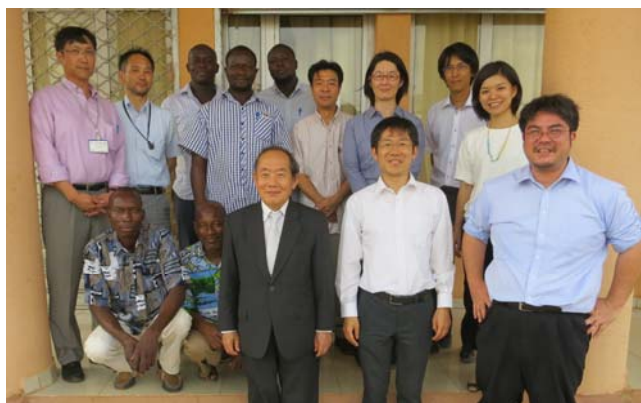
氏名	所属先・役職	プロジェクトでの役割
DIAWARA Ali Badara	DGPER（農村経済振興総局）DPEFA（農業フィリエール経済監視・振興局） 局長	JICAゴマ生産支援プロジェクト担当 長
POUYA Thierry W.	DGPER DPEFA ゴマフィリエール担当	組織化、研修担当
TINGRI Issaka	DGPER DDMPA（農産品市場開発局） 経済計画・調査分析担当	取引、販売、マーケット担当
MOUKIAN/ OUEDRAOGO O. Juliette	DGPER DTAN（加工・食糧・規格振興・農産品栄養価局） 促進・基準・計測室長	収穫後処理担当
ZOUNGRANA Urbain	DGPV（植物生産総局）DVRD（普及・研究開発局） 農業上級専門家	ゴマ生産、栽培技術担当
BANISSI/NANEMA Claudine	DGPV DPVC（植物防疫局） 植防エンジニア	品質管理担当
OUEDRAOGO Oumar	INERA（国立環境農業研究所） 生産室長	育種担当
BIHOUN Jean	DGPV DVRD 農業普及設計エンジニア	改良品種担当
MALO Théophile	DRAAH/HB（オー・バッサン州農業水資源・整備局） 農業エンジニア	オー・バッサン州コーディネーター
SANOU Kointani	DRAAH/BM（ブックル・ドゥ・ムーン州農業水資源・整備省） 農業上級専門家、農業フィリエール促進支援室長	ブックル・ドゥ・ムーン州コーディネーター



プロジェクトの実施体制図

業務実施チームの着任

2016年2月23日、業務実施チームがブルキナファソに入り、活動を開始しました。業務実施チームは7名のコンサルタントで構成されており、日本とブルキナファソを行き来しながら活動を実施します。これまでに派遣されているブルキナファソに常駐の2名の長期専門家と合わせて、計9名の日本人が協力しながら業務にあたります。



写真：日本人の面々と、プロジェクトスタッフ。右から2番目はJICAブルキナファソ事務所の岡田職員。プロジェクト事務所前にて。

	氏名	担当分野
業務実施チーム	中垣 長睦	総括/ゴマフィリエール形成支援
	大谷 華子	副総括/流通
	中條 淳	普及1 (FFS/FBS実施・運営)
	小林 裕三	普及2(農民組織化)
	松田 健志	普及3(視聴覚教材)/業務調整
	南谷 貴史	収穫後処理
	桑原 雅彦	農薬管理
長期専門家	土方 野分	営農/栽培
	菊田 雅義	業務調整/コミュニティ開発

プロジェクトの実施に向けた協議(中央政府など)

業務実施チームの着任後、日本人専門家とブルキナファソのカウンターパートとの間で、今後のプロジェクトの実施に向けた協議を実施しました。日本人専門家団と農業省の関係各局とのそれぞれの間で、お互いの自己紹介を兼ねて面談を行い、今後のプロジェクト実施の方向性について意見交換をし、共有を図りました。中でもブルキナファソ側のメインのカウンターパートとなるDPEFA（農業フィリエール経済監視・振興局）と日本人専門家団は複数回に渡り面会し、3月4日のJCC会議に向けて綿密な協議をするとともに、今後の業務の内容を検討しました。



写真：農業フィリエール経済監視・振興局と日本人専門家の協議の様子。

また、日本人専門家団は、就任したばかりの農業省の事務次官とも、専門家着任直後の2月25日と、地方出張後の3月14日の2度面会し、プロジェクトの方向性を共有するとともに、本格的に動き出したプロジェクトに対してさらなる関与を求めました。



写真：事務次官と日本人専門家の面会の様子。

その他、ゴマの生産から流通・販売・輸出までの業界関係者らと面談し、積極的な情報の収集に努めました。



上写真：大手穀物輸出企業「Groupe VELEGDA. SARL」社の処理能力100t/日のゴマ選別プラント。
下写真：同社の倉庫を見学する日本人専門家。

プロジェクトの実施に向けた協議(地方州)

中央(首都ワガドゥグ)での協議・情報収集と並行して、業務実施チームの日本人コンサルタントは、2月26～28日、3月8～11日、17～21日、29～31日の4回、プロジェクトの対象州であるオー・バッサン州とブックル・ドゥ・ムーン州を訪問しました。それぞれの州でプロジェクト活動に関係する農業局の職員と面談を行い、今後のプロジェクト活動の具体的な進め方について協議しました。また、輸出業者、ゴマ生産者組織、仲買人、種子生産企業、農薬関連業者、農業機械輸入販売店、普及員、そしてゴマ栽培農家らとも面談し、ゴマの生産から販売までの過程、流通の仕組み、価格の決定方法など、ゴマを取り巻く環境に関して情報収集を行いました。例えばゴマの買取価格に関しては、品種による違いや色ゴマの混入、品質の差異に関係なく一定で、夾雑物が無ければ買取対象となり、まとまった量が揃えられれば単価が上がる傾向があることが分かりました。情報収集は今後も継続しつつ、今後の普及研修やゴマフィリエール形成支援などの活動に活かしていきます。



上写真：ブックル・ドゥ・ムーン州農業局のMouhoun 県局長と同州のプロジェクト担当らとの面談の様子。
下写真：同州のゴマ生産者地域ユニオンのメンバーからの聞き取りの様子。

上写真：ブックル・ドゥ・ムーン州のゴマ栽培農家からの聞き取りの様子。
下写真：オー・バッサン州のゴマ栽培農家の畑(播種前)。

上写真：オー・バッサン州州都の中央市場の農薬取扱い小売店舗。
下写真：同州の普及員との面談の様子。

ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクト

プロジェクト事務所

03 BP 7123 Ouagadougou 03, Burkina Faso

Tel: +226-67-37-59-80

Email: projetsesame@yahoo.fr

<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/005/index.html>

編集室より

この度、ブルキナファソ国ゴマ生産支援プロジェクトのニュースレターを発行することになりました。これからは、定期的にプロジェクトのニュースを伝えて行きます。プロジェクト関係者の皆様からは、プロジェクトに関する情報・ニュースを随時受け付けていますので、ご協力をお願いいたします。